

### ③ お塔様

小さなほころの中に五輪塔一基がまつられてある。江戸時代、当地の領主であった奥平氏の娘で宗高院と呼ばれた女性の墓といわれている。



### ④ 鎌倉中央公園 (池之谷・東谷)

鎌倉でも有数な自然の残された場所で、豊かな自然を生かし、農業体験など多様な余暇活動や都市緑化植物園として「緑の相談所」などもあり、緑化推進の拠点にもなっている23.7ヘクタールの風致公園。過去には山裾から横穴墓や土器などが、発見されることも。

### ⑤ 富士塚

小山をおおう木立の中に富士浅間神社をまつた石碑が立っている。江戸時代中期以前は、街道宿駅制度や施設が整い、太平と経済的基盤が安定したこと、庶民も信仰を重ねて速くへ旅する事が出来るようになった。富士講はもとより、遠く月山・湯殿山・羽黒山の出羽三山にまで出かける講中も少なくなかった。これらの石碑はその名残りである。



富士塚の頂きには、嘉永二年(1849)に造立された釈迦の石像がある。その台石にはこの塚を造るのに関係した世話人や富士講の名が刻まれており、それらのことから富士山に似せて築かれた塚と考えることができる。

### ⑥ 泉光院

寺号は高音寺。本堂には阿弥陀三尊像、不動明王像が安置されている。本堂はかつては木造建築だったが、関東大震災のとき倒壊したため、その後、昭和三十六年鉄筋コンクリートに改築された。また薬師堂には薬師如来像がある。



### ⑦ 上町屋天満宮

上町屋の鎮守。平安時代、藤沢の村岡にあった平良文が夢のお告げに従い、天神をまつたのがはじまりという。祭神は菅原道真公。社殿は天明元年(1781)に建てられたという。拝殿の前に正徳二年(1712)につくられた菅原道真の半肉彫の石碑がある。神像を刻んだ石碑は鎌倉ではめずらしいといわれている。

### ⑧ 泣塔

泣塔と呼ばれるのは、石造りの宝篋印塔で、背後のやぐらには数基の五輪塔がある。これらは洲崎の合戦で亡くなった将兵の供養塔といわれてきたが、はっきりしたことはわかっていない。昔から、この塔のある土地を手に入れた人は必ず没落するといわれ、次から次へ持ち主が変わったといわれる。このため、この塔をあるとき手広の青蓮寺に移したところ、毎夜、風の間にすすり泣くような音をたてた。これは元の場所が恋しいのだろうと、寺では村人たちと相談し元の場所に移した。すると、泣き声は立たなくなったという。あるいはこの塔の背後のやぐらに風が当たって泣くような音を立てるので、「泣塔」とよばれるようになったともいう。泣塔は、文和五年(1356)の銘を持ち、文化財としての価値も高いことから、鎌倉市指定文化財に指定されている。



### ⑨ 洲崎古戦場の碑

当地はかつて洲崎郷と呼ばれていた。鎌倉幕府を倒すため、元弘三年(1333)、新田義貞は大軍をひきいて当地に進出してきた。これを迎え撃つ幕府は、赤橋守時を大将とする六万の兵で新田義貞の軍と戦った。この戦いの激しさは、室町時代の書「太平記」や「梅松論」に記述されている。それらの戦記によると、一昼夜の間に六十数回の戦闘が行われ、赤橋守時の率いる六万の軍勢はわずか三百に打ち滅ばされてしまったという。



守時は、足利尊氏の妻の兄で、その事が常にあったため、「もしここで降伏すれば、新田軍に内通していたと思われる。それこそ武士の恥」そういつて洲崎の千代塚で自刃した。守時の死を知った幕府軍は葛原岡へ敗走し、それを追って新田軍は一気に鎌倉に攻め込んだ。当地に立つ石碑には「洲崎古戦場」と刻まれている。戦死者を慰めるために建てられたらしい。

## 江の島・鎌倉モノさんぽ 富士見町駅～湘南深沢駅

発行：湘南モノレール株式会社 〒248-0022鎌倉市常盤18  
TEL.0467-45-3181 URL <http://www.shonan-monorail.co.jp>

# 江の島・鎌倉モノさんぽ

沿線歩きで、楽しさ発見!



大船

富士見町

湘南町屋

湘南深沢

西鎌倉

片瀬山

白山下

湘南江の島

鎌倉中央公園

### 富士見町駅～湘南深沢駅

【全コース：約5km・約3時間※移動分のみ】

### 天神様ウォーク

信仰の地、  
激戦の地をめぐる...

富士見町駅 ▶ 天神下交差点 ▶ 庚申塔 ▶ 北野神社  
▶ 江の島道標 ▶ 十王堂跡 ▶ お塔様 ▶ 鎌倉中央公園  
▶ 富士塚 ▶ 湘南町屋駅 ▶ 泉光院 ▶ 上町屋天満宮 ▶  
▶ 泣塔 ▶ 洲崎古戦場の碑 ▶ 湘南深沢駅

### これ知ってる? ～鎌倉市上町屋遺跡～

湘南町屋駅バリアフリー化工事にもなって、平成15年10月16日～12月に埋蔵文化財発掘調査が行なわれたところ、地表面下30～40cmより、黒褐色土の堆積土から40mほどの竪穴住居址1軒を確認。出土した土師器・須恵器などから8世紀前半(奈良時代)のものと考えられるそうです。さらに掘り進めると地表面下150cm程に暗茶褐色土の堆積が認められ、面上からは縄文土器、石器38点が出土。縄文時代前期の諸磯式土器(約4000年から5000年前)が主体の遺物と考えられるとのこと。奈良時代の住居址が確認されたり、谷戸奥部に丘陵を挟んだ「天神山城遺跡」と同時期の住居址が発掘されたり、古代の人々のくらしが身近なところに、と思うと不思議な気がしますよね。



奈良時代竪穴住居跡

湘南モノレール



# ①北野神社

暦応年間(1338~1342)、夢窓国師が、円覚寺の南西に当たる天神山に京都の北野天満宮を勧請したのがはじまりで、当時は神仏習合だったので、本地仏十一面観音は明治維新の際、宝積寺に移された。また、拝殿の左手には、宝積寺の僧教音が応永十二年(1405)に建てたという「利生塔」と呼ばれる宝篋印塔が残されている。塔身部には東西南北面にそれぞれ薬師如来、阿弥陀如来、弥勒菩薩が半肉彫りされている。北野神社と宝積寺の神田・寺領は広大なものだったが、貞治元年(1362)、円覚寺黄梅院院主がお宮を再建したが以後、次第に衰えた。江戸時代には当地の鎮守となり、社殿も参道も改修された。祭神である菅原道真の没後一千年にあたる明治三十五年には、神殿が改修され、円覚寺全山の僧が参加して盛大に祭典が行われた。毎年9月、鎌倉神楽(湯立神楽)が境内で行なわれる。



# 天神様ウォーク

信仰の地、激戦の地をめぐる

“天神山”  
東側山腹から縄文式土器や弥生式土器、土師器などが出土。鎌倉時代から室町時代にかけては山城の砦であったとみられる。かつては鎌倉へ通じる交通の要所だった。

“十王堂跡”  
山崎集会所の敷地にかつては十王堂があった。当時、堂内に安置されていた閻魔大王をはじめとする十王像は昌清院に移された。

“周囲に甘い香りが漂います。おみやげにも…”



## ②江の島道道標

江戸時代、江の島参りの人々が利用した古道で、江戸時代から戸塚を経て小袋谷、台とたどった参拝者たちは、当地から山越えに上町屋へ出、さらに手広の鎖大師にて目的地をめざした。



## 鎌倉中央公園

◎開園時間 8:30~17:15 (7・8月は7:30~18:00)  
◎無休 ◎駐車場は予約制  
◎TEL:0467-45-2750



※源頼朝の隠し湯 天神山の西麓にあたり、第二次大戦前まで「山崎園」という温泉旅館があった。当地はむかしから鉱泉が湧くことで知られ、「湯之本」「熱海」など小字が残っている。むかし、田圃の中にじっとうずくまる雁を見つけ、村人はそっと近づいてみた。すると雁は足に負った傷を治すために田圃の水につかっているようです。数日たつと、この雁は傷が治ったらしく、元気に飛び立っていきました。その後も、雁が傷などを治すためによく姿を現したという。こうしたことから村人たちは田圃の水が傷によく効くことを知り、当地に「雁番屋」を建て、雁を見守りながら自分たちも傷を治したという。また、源頼朝は当地の水が傷に効くことを知り、戦で傷を負った将兵の治療に利用し、みずからもお忍びで湯につかりに来たという。円覚寺の僧もよく利用したといわれる。明治になって当地の人々が「マッチを近づけると燃える水がある」というので調べてみると、水の中にラジウムが含まれていることがわかり、温泉旅館が建てられた。天神山の西側斜面に四国八十八ヶ所巡りの石仏を設けたこともあって、お参りがてら多くの人が訪れた。山崎園の跡には井戸が一つのこっているが、現在はコンクリートで蓋がされ、中をのぞくことはできない。

